八中2年人権だより

徳島市 八万中学校
２年生　第13号
2023年10月18日
編集・文責 吉成正士

（第12号からのつづき）

行動・勇気を持って考え続けた先にあるもの

■感想を率直に言うと，苦しかったです。沖縄の人々の恐怖や悲しみをすべて分かるのは無理だと思います。被害に遭われた人の分だけストーリーがあると思うと，その一つ一つを分かり切ることはできません。だからこそ，少しでも学び，考え，伝えることが大切だと思います。

動画内で出てきた「将来の夢はお母さんのご飯をお腹いっぱい食べること」「この子が大きくなるころには平和な世の中になっていますように」といった言葉が特に印象的でした。今，私たちは毎日申し訳ないくらいご飯を食べ，安全に生活しています。昔の人が築いてくれた平和な世の中をずっと続けていくのは，私たちなんだと思います。今日，発表する機会があるなか，手を挙げて発表することができませんでした。間違ったことはきちんと違うという。少しの勇気で変わると思うので，これからの学習，勇気を持って考え続けていきたいです。　５組OM

口に出すという勇気ある行動に

■私はこの映画を観て，戦争は人々の幸せを奪ってしまうものだと改めて感じた。まず，戦争のラジオを聞いたときのすごく不安そうな表情，そして結婚の取り消しをしようと悩んだとき，幸一さんが「今の気持ちが一番ですから」という言葉に，すごく安心感を持った。

私はこの映画の中で忘れられないシーンがある。それは，次男の昇がアメリカ兵のところまで走っていくシーンだ。「僕は臆病者じゃない」その強い言葉とまなざしに胸を打たれた。父母への思い，撃たれても何度も立ち上がる姿がたくましく，同時にもう頑張らないでほしいと思った。幸一の，こんなことをするために生きているんじゃないと訴えるシーンでは，幸一さんはすごく強い人だと思った。私なら上官の命令に従ってしまう。自分の意思を言うのは怖くて恐ろしいものだと思った。

私はいつも人権学習で，自分の意見を言えない。今日，幸一さんの家族のように，口に出すのはすごく大切だと思った。勇気を出したいと思った。　５組KH

やらずに後悔するより，やって後悔する行動

■私はこの映画を観て，戦争で失われる命だけでなく，戦争中に生まれてくる命もあることを実感しました。そして，戦争中にも小さな幸せと希望を願う人が確かにいたんだと思う映画でした。幸一さんのカメラに入っていた写真は，どれもみんな笑顔で，「これって本当に戦争中？」と思うようなシーンもあれば，人を殺したくないのに殺す，相手が助けを求めているのに殺せと命令される，自決をしようという言葉が聞こえるなど，心が苦しくなるシーンもありました。「戦争は人を不幸にする。誰一人として幸せだなんて言っている人を見たことがない」という河野さんの発表で，私もそれにとても共感できました。きっとこの先も，「戦争は幸せ」だなんて言う人はいないと思います。戦争は不幸しか呼ばないということを，この先の世代にも伝えていかなければならないと思いました。

最後の吉成先生の話で，自分を甘やかしてないかを問われたとき，泣きそうだったからという理由で発表しなかったことを後悔しました。これからは勇気を出して，やらなくて後悔するよりも，やって後悔するような生き方をしたいと思います。　５組HM

今，私たちができる行動

■私は今日，さとうきび畑の唄を観て，前半は幸せな家族の日常が映されていたけど，戦争が起こってから家族がバラバラになってしまって，どんどん人が死んでいく姿を見て，戦争は本当にたくさんの人を苦しめたんだと改めて実感しました。

幸一さんが，「こんなことをするために生きてきたんじゃない！」と声を上げていうシーンがあったけど，本当にその通りだと思いました。私だって人を傷つけるために生きてるわけじゃないし，当時の人もそうだったと思います。でも，当時は自分の考えなど通らず，「お国のため」とか「天皇陛下のため」とか，そんな理由で罪のない人がどんどん亡くなっていって，本当に戦争はやってはいけないと思いました。戦争は過去の出来事だけど，「自分には関係ない」じゃなくて，日本で実際に起きた出来事として受け止めなければならないと思いました。そして，この戦争を乗り越えてきた人がいるから，今自分たちがいることを忘れずに，今私たちができることをして，二度と戦争を起こさないように行動をしようと思います。　６組WN

周りの空気に飲み込まれない行動力を

■今日，さとうきび畑の唄というDVDを観て，一番印象に

残ったのは，さんまさんが演じていた主人公の人柄です。みんなが下を向いているときはいつもふざけて，人を笑顔にしていました。周りがどんだけ暗くても，自分だけは常に明るいことで，戦争という苦しいなかでも周りの人を元気づけていました。こんな行動をできるのは，本当にすごいと思ったし，私だったら周りの空気に飲まれて絶対にできていなかったなと思いました。これは，人を笑顔にしたいという強い気持ちがあったからできたのだと思います。でも主人公の人も，家族と離れ離れになって，不安と心配で押しつぶされそうだと思います。私もどんなにつらく悲しいときでも，人を笑顔にできる人になりたいと思いました。　　6組FM

これまでの感想に共通して言えることは何だと思いますか？

「行動すること」です。

皆さんは今回のドラマを見て，その重要性を痛烈に学び取ったようです。であるならば，そうしていきましょう。「発表すること」です！

つまり，自分の思いや考え，意見の表明が日常的にできてなかったら，ものが言えない社会になってしまうということです。ものが言えない社会になれば，普段起きないはずのことが起こってしまうということです。いじめも戦争も起こってしまうということです。ものが言えない社会になれば，嫌らしい言葉や行動が日常化してしまいます。仲間外しを起こしてしまいます。そんな集団が，本当の仲間と言えるでしょうか。そうならないために，皆さんには，「発表していこう」と，ずっと言い続けているのです。そのことを今回，「さとうきび畑の唄」を観ることを通して，感じたわけです。決して，「戦争はいけません」ということだけを学べばいいというものではありません。

「戦争はいけません」は，「いじめや差別はいけません」と同じです。そんなことは，ずっと前から分っていたはずです。でも，日常的なところで嫌らしい言葉や行動が起こっていく。それがエスカレートして，仲間外しやいじめに発展していく。それは，本来言い合えるべきことが言い合えてないからです。

人権学習が大切にしていることは，「互いを知り合うこと」です。そのために，それぞれのクラスでは日直さんが学活の進行をしたり，１分間スピーチがあったり，この人権だよりがあったりします。でもそれはきっかけに過ぎません。そのきっかけをもとにして，突っ込んで互いを知り合うことです。今まで誰にも話してないようなこと。自分の愚かさ，失敗，間違ったこと，悲しかったことやつらかったこと，苦しかったことや腹が立ったこと。そんな自分の腹の奥底にあることを吐き出して，はじめて「その人」を知るのです。いいところやすごいところ，素晴らしいことなんてどうでもいいです。互いの知りえないところを知り合って，本当の仲間になっていくのです。

そんな自分をさらけ出す発表は，勇気もいるでしょう。でも，平山幸一さんの家族は，それぞれがその勇気を実践していったのではないでしょうか。身をもって行ったのではないでしょうか。勇気などという生ぬるいものではなく，本当に真剣に，今の関係性を正していく，変えていく，そしてそれぞれの学級が良くなっていく，それぞれの関係性が良くなっていくような「今」をつくっていきましょう。

これまでにも，大勢の前で発表してくれた人はいますよね。その人たちに，私から注文があります。

「今まで発表した人は，発表する前，発表しているとき，発表して終わったあと，どんな気分でしたか？」

これを，来月の授業参観で問います。思い返して，聞かせてください。そこで出てきた思いを，より多くの人に味わってもらえたらと思います。

発表するとき，緊張する人がほとんどでしょう。何を言えばいいかわからず，右往左往する人もいるでしょう。言うことを決めてても，立ちれば頭が真っ白になって，何を言えばいいか分からなくなることもあるでしょう。そのうち顔が熱くなって，座ってからは頭が冷めるまでボーっとしたりします。でも，そんな緊張感にチャレンジしていけば，次第に普段通りの自分でいられるようになり，緊張感に飲まれなくなります。それは大事な試合のときや，人前に立たなければならないとき，受験の面接のときに，きっと役立ちます。慣れてしまえば逆に，楽しめるようにさえなってしまいます。手を挙げるという勇気を積み重ねていくことが，どんなときでも動じない，周囲すら安心させられる自分になっていくのです。だから何回も何回も，機会があるたびに，意見表明をして自分を鍛えていくことです。そんな自分になっていきませんか。

ただ，すべての人が発表できるか，といえば，それはそれで難しいかもしれません。以前私がそれぞれのクラスで話した，１／３理論は覚えていますか？前向きに進めていける人が１／３くらいはいないと，望ましい方向には進んでいかないという話。そこをまずは頑張りませんか。誰か，ではなく，自分が。恥ずかしいとか面倒くさいとか言ってる場合ではありません。自分を甘やかさず，自分に厳しく頑張ることです。

もの言わぬ社会，もの言わぬ教室は，もの言えぬ社会，もの言えぬ教室になってしまいます。そんな教室，社会にならないように，自分の考えが通らなくなる前に，ちゃんと声を上げられる学習，差別をしないような，差別をされないような学習にしていきませんか。格好いいことやすごいことでなくていいのです。あなたという人物が分かるようなことを語っていくことです。そんな時間を，それぞれの学級で取り組んでおいてください。そんな時間を，楽しみましょう。

（第14号につづく）